

<白金標準、8日の全人代常務委員会以降は高値追いか・・・>



(出所：オアシス)

国慶節以降、中国の景気刺激策を好感し、4527円で下げ止まった白金標準先物は5188円まで高値を試している。しかし大統領選でトランプ元大統領が世論調査でハリス副大統領を追い上げており、アジア市場はトランプ元大統領が勝利した場合、中国に対する60%の関税発動のリスクを嫌い、中国株や韓国株が大きく反落し、景気商品である白金標準先物は週末には4816円まで下値を模索している。特に2017年～2021年のトランプ政権下では米中関税問題で景気商品である白金価格は軟調な値動きを続けていた事からも大統領選が終わるまでは下値追いの値動きに思われる。しかし週末の雇用統計で非農業部門雇用者数が1.2万人増と大幅な低下を示すなど7日のFOMCでは0.25%の利下げ確率が高まり、白金標準先物は下げ渋る動きを示している。

また4日～8日に開催される中国全人代常務委員会で3年間10兆元(216兆円)の景気刺激策が承認されれば、大統領選の不確実性で下げた水準から巻き戻しの動きを強めて来ると思われ、大統領選以降は中国の景気刺激策に備えて強気を維持するのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げながら、シグナルは切り下げている。RCIでも短期が下げながら長期も切り下げだしている。また日足が10日移動平均線を下回っており、目先200日移動平均線(4668円)に向けた調整安に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,695,000 円(2024 年 11 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 84,480 円(2024 年 11 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>